

大牟田市立上内小学校

1 本校のE S Dの特徴

(1) 「持続可能な開発のための教育」のねらい

身近なふるさとの自然や環境との関わりを通して、他の人と積極的に関わりながら環境保全のための実践に取り組む態度や、地域を誇りに思う心情を養い、持続可能な社会の担い手を育成する。

(2) 「持続可能な開発のための教育」の推進方針

- 環境教育を基軸とし、地域の自然や人材との共同によるE S Dを推進する。
- E S Dカレンダーを作成し、各教科・特別の教科道徳・総合的な学習の時間・外国語活動・その他の教育活動を有機的に関連させる。
- 児童の体験・体感を重視し、探求や実践を重視する参加型アプローチとなるように努めながら、学んだことを外部へ積極的に発信する。
- E S Dに関する資料を収集・蓄積し、活用を図るとともに、新たな地域人材の発掘と協働による地域に根ざしたE S Dを推進する。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 育てたい能力・態度

- ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する力 ⑥つながりを尊重する力
- ⑦進んで参加する態度

(2) 学年別の主な活動

- 【1年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」〈⑥⑦：生活科〉
- 【2年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」〈⑥⑦：生活科〉
- 【3年生】「上内よかところ見つけ隊ー岡川（汐井川）を調べようー」 〈③⑤⑥：総合的な学習の時間〉
- 【4年生】「校区に流れる川の環境を調べよう」 〈③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【5年生】「米作りから学ぼう～上内の米作りの特徴～」 〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【6年生】「米作りから学ぼう～気仙沼とつながる～」 〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉

3 特徴的な活動事例の紹介

＜第4学年 総合的な学習の時間 単元名「校区に流れる川の環境を調べよう」＞



(1) 目標

- 校区を流れる岡川の環境（生き物、水質、ごみ等）を調べることを通して、自分たちの地域のよさを発見し、愛着を持つとともに、自分たちが住む地域の環境を保全していこうという想いを持つことができる。

(2) 単元構成

- ①社会科で学習した上水・下水のことをもとに、校区を流れる川の水質について関心を持ち、川の環境を調べるという活動の見通しを持つ。
- ②大牟田市や校区の地図をもとに、いつ、どこで、どんな調査ができるか学習の計画を立てる。
- ③ネイチャーガイドの柿川先生と一緒に、校区を流れる岡川について、パックテストによる水質調査や透視度検査、生き物調査を行い、校区を流れる川の様子について知る。
- ④調べて分かったことや、もっと調べてみたいことをもとに課題設定し、テーマごとにまとめる。
- ⑤玉川・明治・中友・吉野小学校と、これまでに学習してきたことを中間報告として、Zoomで交流する。
- ⑥調べたり交流したりして分かったことをまとめ、「5校合同川サミット」において他校の子ども達へ発信する。

⑦他校区の川の様子や取組を比べ、上内の環境の素晴らしさや自分たちにできる環境保全について考え、校内でも広めたり、学習の振り返りを行ったりする。

(3) 実際の展開

【課題設定】

社会科の学習で、自分たちが使用する水が川の水を浄水して届けられていることや、使用後の水が浄化施設に集められ、浄化されて海に流されている学習をしていることから、子ども達は「自分たちの校区を流れる川の水はどうなっているのか？」という疑問を持ち、「環境」という視点から岡川を調査するという学習計画を立てた。

【実態調査】

川的环境について詳しいネイチャーガイドの柿川先生をGTとして招き、校区の川で水質や生き物の調査を行った。調査した岡川にはきれいな川にしかない生き物が10種類以上生息していた。さらに、パックテストや透視度計を使い水質検査を行うと、透明度の高いとてもきれいな水であることが分かった。岡川の水は市内の堂面川に合流し、有明海に流れていく。川の水が汚れることは、海の水を汚すことになり、そのごみを口にした魚が自分たちの食卓に並ぶかもしれないこと、汚れた海の水が蒸発し、雨水となり、川の水になることなどを柿川先生から教えていただいた。そして、自分たちの周りにある環境に関わり合っていること、一つの環境汚染が様々な場所へ影響していくことが分かった。このことから、自分たちの校区の川をいつまでもきれいなままに残すにはどうすれば良いのかという課題を持った。



川の調査



パックテストの結果

【情報発信】

子ども達は、校区の川がきれいであること、この美しさをいつまでも残していくためにできることについて、他校の人と交流する「5校合同川サミット」で伝えるという計画を立てた。そして「岡川に生息する生物」「川を守るためにできること」のテーマに分かれ、分かったことをまとめた。そして、校内でも調べたことを発表する会を開き、全校児童に上内の校区を流れる川の素晴らしさを伝えた。さらに、「5校合同川サミット」では、ホタルが生息するほど川がきれいであること、川には自浄作用があること、そのきれいな川を守るために自分達が取り組んだことについて、他校の児童と意見を交流し、自分達の校区の川の素晴らしさだけでなく、それぞれの校区を流れる川もきれいな川にするために努力していることを知り、それぞれの川の特徴を学ぶことができた。そして、これから自分達にできることについて、川の問題は、大牟田市全体で取り組まなければならないことを実感するとともに、共通実践について意見交流することができた。さらに、5校合同でのキャッチフレーズ「小さな努力で未来は変わる！」を設定し、実践意欲を高めた。



「5校合同川サミット」での学び合い

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・各学年で地域教材、人材を活用し、環境教育を中心としたESDに取り組むことができた。
- ・地域の環境や、GTの方との関わりの中で、地域への愛情、環境を守る努力や思いを知ることができ、地域の素晴らしさを知るとともに、愛着を深めることができた。
- ・SDGsを意識し自分たちにできることを考え、環境を守るためにつながる取組を、校内に広めることができた。

○課題

- ・地域に残る教材化できる文化財や人材の活用についての検討。
- ・ESDカレンダーを活用した、他教科と関連付けた単元構成の見直し・修正。
- ・「5校合同川サミット」の在り方や、相手意識・目的意識をもった発信の方法。